

## 第64歩

### 「芸術祭 in summer time」

今年は、6月27日に梅雨明けが宣言されました。四国で6月に梅雨明けするのは初めてのことだそうです。過去最速は、1964年の7月1日で、61年ぶりに記録更新です。梅雨の期間も19日間で最短でした。これも地球温暖化の影響でしょうか。今年もこのまま、昨年、一昨年と同様、猛暑日が続くようなひどく暑い本格的な夏に突入しそうです。

今年の夏、8月の1か月間は、そのまま、瀬戸内国際芸術祭2025の夏会期となります。「夏の芸術祭（芸術祭 in summer time）」本番です。「サマータイム」と言えば、私の頭の中には、ガーシュインの名曲のフレーズが浮かんできます。元々はオペラ「ポーギーとベス」の子守唄として生まれたこの曲は、希望と不安が交錯する夏という季節を象徴するような名曲で、夏の盛りから晩夏にかけて聴きたくなる私の好きな曲でもあります。

ところで、これだけ梅雨明けが早いと当然、湯水も気になってまいります。このまま降雨がなければ、早明浦ダムの貯水率も減り続け、水不足になる恐れもあるなど、これから長い間酷暑が続くとすると心配は尽きません。

いずれにしても、夏の瀬戸内は、海の穏やかさの反面、一方では容赦のない日差しが照りつけた後の夕凧時の蒸し暑さなど、過酷な季節でもあります。特に近年の地球温暖化が進行していると思わざるを得ない環境では、猛暑日が長く続くことも覚悟しておかなければなりません。そのため、熱中症対策も万全にしておく必要があります。芸術祭の開催される島には自動販売機がない場所もあり、冷房の効いた休憩所も限られているため、来場前には「こまめな水分補給」と「帽子や日傘の持参」を呼び掛け、島内ではスタッフが注意喚起を行うこととしています。また、冷たい飲料水の給水スポットを男木交流館に設置しました。

芸術と自然と健康。この三者のバランスの上に「夏の芸術祭」は成り立ちます。ガーシュインの旋律を口ずさみながら、帽子を深くかぶり、水筒を手に水分を十分に補給しながら、島を巡り、芸術作品に浸る。そんな夏の過ごし方はいかがでしょうか。

